

11 「やまぼうし(紅花)」及び「赤実のいぬつけ」
の挿木繁殖法 (園試 野菜花き部)

県内の自生花木であるやまぼうし(紅花)は、かかと挿しがよく、挿木時期は新梢伸長期(6月10日~6月25日)が最もよく、オキシベロン50倍液に穂木を一昼夜浸漬するか、オキシベロン1%粒剤を挿木直前に粉衣して挿す。

あかみのいぬつけは、挿し穂は1~3年枝まで使用でき、挿し木時期は7月上~中旬で、やまぼうし同様のホルモン剤処理をする。

(1) 背景とねらい

本県の花木類は、年々その生産が伸びつつあるが、ここでは県産花木である、やまぼうし(紅花)赤実のいぬつけの効果的な挿木繁殖法を知り、栽培の基礎資料とするため、S54~56年に亘って試験した結果、一応の結果がまとまったので、指導上の参考に供する。

(2) 技術の内容

1) やまぼうし(紅花)の挿木繁殖法

(ア) 挿木方法は、かかと挿しとする。

(イ) 挿木時期は、新梢伸長期が最も良い。

(大船渡地方では、6月10日~6月25日頃にあたる。)

(ウ) ホルモン剤の効果は高く、オキシベロン50倍液に穂木を一昼夜浸漬する。

粉剤では、オキシベロン1%粉衣を挿木直前に行う。

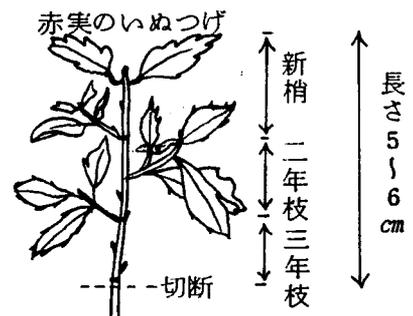
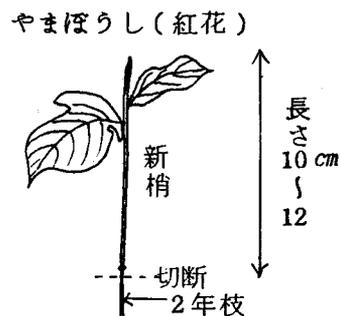
2) 赤実のいぬつけの挿木繁殖法

(ア) 挿穂は、1~3年枝まで使用出来るが、実的には、3年枝挿しが有利である。

(イ) 挿木時期は7月上、中旬とする。

(ウ) ホルモン剤による発根効果は、やまぼうし(紅花)同様である。

挿穂の調整



3) 適応地域 県下一円

(3) 指導上の留意点

- 1) 挿木後の管理は、普通の日で、隔日かん水(7~8月)とし、9月以降のかん水は、地温低下につながるので、表面が乾いたら、かん水するようにする。
- 2) 高温期の7~8月は、黒い寒冷紗で日よけをする。
- 3) 挿木床は、鹿沼土を用い箱挿しとする。
- 4) 冷涼地では、挿木時期を若干おくらせる。

(4) 試験成績の概要

A やまぼうし(紅花)

- 1) 試験課題名: 紅花やまぼうしの挿木試験
- 2) 試験年次及び試験場所: 昭和54~56年 岩手園試南部分場

3) 試験方法

供試条件

(ア) 試験区

54年

ホルモン処理と挿木法

ホルモン剤処理方法	挿木方法	
	天挿	かかと挿
① 無処理(水浸漬)	0	0
② オキシベロン 50倍水溶液	0	0
③ " 100 "	0	0
④ " 500 "	0	0
⑤ " 1%切口粉衣	0	0
⑥ " 0.5% "	0	0
⑦ ルートン "	0	0

- (イ) 面積及び区制
- | | | | |
|------|----|-----|-----|
| 天挿 | 1区 | 10本 | 1区制 |
| かかと挿 | 1区 | 10本 | 2区制 |

(ウ) 耕種概要

- ① 挿木時期: 7月18日
- ② 挿木方法: 鹿沼土、箱挿
- ③ 管理方法: 高温期は、寒冷紗被覆、手灌水
- ④ 処理方法: 液剤は、1昼夜処理、粉剤は挿木直前使用

㉞ 試 験 区

55年 挿木時期

- ① 6月25日 ② 7月8日 ③ 7月25日

(イ) 面積及び区制 1区10本 2区制

(ウ) 耕 種 概 要

- ① 挿木方法：鹿沼土、箱挿し（かかと挿し）
② 管理方法：自動かん水、高温期は、寒冷紗被覆

㉞ 試 験 区

56年 ホルモン処理と挿木時期

ホルモン剤処理方法	3月25日	5月25日	6月10日
① 無 処 理 区	0	0	0
② オキシベロン50倍区	0	0	0
③ オキシベロン1%粉衣区	0	0	0
④ ル ー ト ン 区	0	0	0

(イ) 区制及び面積 1区20本 2区制

(ウ) 耕 種 概 要

- ① 挿木方法：鹿沼土、箱挿し（かかと挿し）
② 管理方法：高温期は、寒冷紗被覆、手かん水

4) 試 験 結 果

天挿、かかと挿による明らかな差は認められなかったが、ホルモン剤による効果が認められた。天挿、かかと挿共に、高濃度のもの程発根率が高い傾向が認められ、液剤では、②オキシベロン50倍区が高く、粉剤では、⑤オキシベロン1%処理が効果が高かった。

また、挿木時期について55～56年に亘って検討した結果、伸長期前頃から伸長初期の発根率が高かった。（6月25日挿し）

(5) 主要成果の具体的データ

表1 発根調査(11月20日調) (54)

試験区		発根本数				無発根数	発根率(%)			
		少	中	多	計		少	中	多	計
天挿	① 無処理	2	0	0	2	8	20	0	0	20
	② オキシペロン 50倍	1	0	1	2	8	10	0	10	20
	③ " 100倍	1	0	0	1	9	10	0	0	10
	④ " 500倍	1	0	0	1	9	1	0	0	10
	⑤ " 1.0%	0	2	2	4	6	0	20	20	40
	⑥ " 0.5%	0	0	1	1	9	0	0	10	10
	⑦ ルートン	2	0	0	2	8	20	0	0	20
かかと挿	① 無処理	1	0	1	2	18	5	0	5	10
	② オキシペロン 50倍	3	0	7	10	10	15	0	35	50
	③ " 100倍	0	1	4	5	15	0	5	20	25
	④ " 500倍	2	0	1	3	17	10	0	5	15
	⑤ " 1.0%	1	3	2	6	14	5	15	10	30
	⑥ " 0.5%	3	0	0	3	17	15	0	0	15
	⑦ ルートン	3	1	2	6	14	15	5	10	30

※区当り本数：天挿区10本、かかと挿区20本

※発根本数 少……1～3本
 中……4～5本
 多……6本以上

表2 発根調査(12月5日調) 2.0個体 (55)

調査項目 挿木時期	発根本数				未発根数	発根率(%)			
	少	中	多	計		少	中	多	計
① 6月25日	2	5	3	10	10	10.0	25.0	15.0	50.0
② 7月8日	5	2	1	8	12	25.0	10.0	5.0	40.0
③ 7月25日	6	0	0	6	14	30.0	0	0	30.0

表3 発根調査(11月13日調) 40個体 (56)

試 験 区		発 根 本 数				無発 根数	発 根 率 (%)			
		少	中	多	計		少	中	多	計
①無 処 理 区	3月25日	0	0	0	0	40	0	0	0	0
	5月25日	2	5	2	9	31	5.0	12.5	5.0	22.5
	6月10日	3	9	5	17	23	7.5	22.5	12.5	42.5
②オキシペロン50倍区	3月25日	0	5	2	7	33	0	12.5	5.0	17.5
	5月25日	4	11	5	20	20	10.0	27.5	12.5	50.0
	6月10日	6	12	7	25	15	15.0	30.0	17.5	62.5
③オキシペロン1%粉衣区	3月25日	0	0	0	0	40	0	0	0	0
	5月25日	7	6	4	17	23	17.5	15.0	10.0	42.5
	6月10日	2	12	16	20	20	5.0	30.0	15.0	50.0
④ル ー ト ン 区	3月25日	0	0	0	0	40	0	0	0	0
	5月25日	2	8	6	16	24	5.0	20.0	15.0	40.0
	6月10日	6	7	6	19	21	15.0	17.5	15.0	47.5

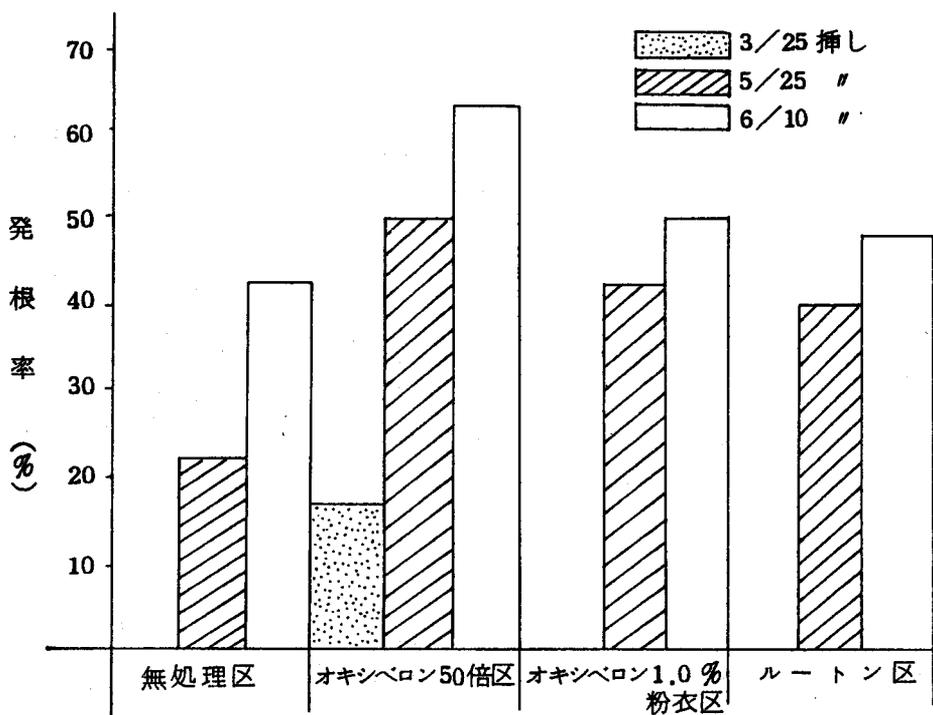


図1 挿木時期とホルモン剤の効果

B 赤実のいぬつけ

1) 試験課題名: 赤実のいぬつけ挿木試験

2) 試験年次及び試験場所: 昭和54~56年 岩手園試南部分場

3) 試験方法

54年

(ア) 試験区 挿木方法

- ① 新梢天挿し ② 新梢かかと挿し ③ 2年枝挿し ④ 3年枝挿し

(イ) 面積及び区制 1区10本 3区制

(ウ) 耕種概要

- ① 挿木時期：7月11日
② 挿木方法：鹿沼土、箱挿
③ 管理方法：高温期は寒冷紗被覆、手灌水

55年

(ア) 試験区 ホルモン剤処理法

- ① 無処理 ② オキシペロン50倍 ③ オキシペロン100倍
④ オキシペロン500倍 ⑤ オキシペロン0.5%粉剤 ⑥ ルートン粉剤

(イ) 面積及び区制：1区20本 2区制

(ウ) 耕種概要

- ① 挿木時期：7月8日
② 挿木方法：鹿沼土、箱挿し(3年枝)
③ 管理方法：自動かん水、高温期は、寒冷紗被覆
④ ホルモン剤処理方法：液剤は、24時間浸漬、粉剤は挿木直前切口塗布。

56年

(ア) 試験区 ホルモン剤処理法

- ① 無処理
② オキシペロン 50倍 }
③ オキシペロン 100倍 } 24時間浸漬
④ オキシペロン粉剤1.0%粉衣

(イ) 区制及び面積 1区20本 2区制

(ウ) 耕種概要

- ① 挿木時期：7月10日
② 挿木方法：鹿沼土、箱挿し(3年枝挿し)
③ 管理方法：高温期は、寒冷紗被覆、手かん水

4) 試験結果

54年の結果では、全般に発根率は、やや低かったか、新梢から3年枝の範囲では、挿木位置による明らかな差は、認められなかったが、実用的には、3年枝挿しが効率的な方法と考えられる。

また挿木時におけるホルモン剤処理は、液剤ではオキシペロン50倍、粉剤ではオキシペロン1.0%粉剤が、無処理に比べて、発根率が優った。

以上のことから、赤実いぬつげの挿木繁殖では、ホルモン剤による挿木効果は高かった。

(5) 主要成果の具体的データ

表4 発根調査(3区平均 11月20日調) (54)

試験区	発根本数				無発根本数	発根率(%)			
	少	中	多	計		少	中	多	計
① 新梢天挿	3	6	6	15	15	10	20	20	50
② 新梢かかと挿	5	6	6	17	13	17	20	20	57
③ 2年枝挿し	2	0	9	11	19	7	0	30	37
④ 3年枝挿し	2	4	8	14	16	7	13	27	47

表5 発根調査(12月5日調) 40個体 (55)

調査項目 区別	発根本数				未発根数	発根率(%)			
	少	中	多	計		少	中	多	計
① 無処理	4	0	0	4	36	10.0	0	0	10.0
② オキシベロン 50倍	4	0	12	16	24	10.0	0	30.0	40.0
③ " 100倍	12	4	0	16	24	30.0	10.0	0	40.0
④ " 500倍	4	4	0	8	32	10.0	10.0	0	20.0
⑤ " 0.5粉剤	4	8	0	12	28	10.0	20.0	0	30.0
⑥ ルートン粉剤	4	4	4	12	28	10.0	10.0	10.0	30.0

表6 発根調査(11月13日調) 40個体 (56)

試験区	発根本数				無発根数	発根率(%)			
	少	中	多	計		少	中	多	計
① 無処理区	8	5	0	13	27	20.0	12.5	0	32.5
② オキシベロン50倍区	11	9	6	26	14	27.5	22.5	15.0	65.0
③ オキシベロン100倍区	10	6	1	17	23	25.0	15.0	2.5	42.5
④ オキシベロン1.0粉衣区	9	7	5	21	21	22.5	17.5	12.5	52.5

※ 発根本数 少…… 1～3本
中…… 4～5本
多…… 6本以上

(6) 残された問題点

(7) 参考資料 岩手県園芸試験場南部分場成績書(S54～56)